

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	10	課題区分	A	令和3年3月31日
横断的な課題						諏訪地域振興局
地域重点政策						
実施機関	諏訪児童相談所			担当課	所属	諏訪児童相談所
事業名	おらほの子どもは、おらほで育てる～地域で育つ、里親養育推進・応援事業			電話	0266-52-0056	
				E-mail	suwajido@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	社会的養護を必要とする児童が住み慣れた諏訪地域で引き続き暮らせるよう、養育里親の認知を高めて、里親候補者の拡充を図るとともに、支援の体制を構築する。				
	現状と課題	・社会的養護を必要とする子ども達の健やかな成長のためには、可能な限り住み慣れた地域の一般家庭で養育されることが重要である。その手段として里親制度があり、特に「養育里親」(児童と法的な親子関係は結ばず、児童が実親の元に戻れるまでの間もしくは自立するまでの間、自宅に迎え入れて養育を担う里親のこと)への期待が高まっている。一方で、諏訪地域における養育専任の里親登録は3世帯にとどまり(令和2年3月末時点)、この拡充策が急務である。 ・里子の育ちには、地域社会各方面で里親養育を支える環境が欠かせないが、県内児童養護施設等で進んでいる「里親支援専門相談員(里親の支援を担う専門職)」の諏訪地域への配置は令和2年4月になされたばかりであり、また、地域の子育て支援を担う市町村における制度の理解は低い。 ・以上から地域社会の様々な分野へ向け、養育里親制度の理解を深める働きかけを行う必要がある。また、同時に各市町村で養育里親制度を熟知し、支援の一翼を担える人材を養成することが急務となっている。				
	内容 (変更後の内容)	・市町村職員等関係者に、養育里親制度の理解を深めてもらうとともに里親のよりよい支援の在り方を検討するための研修会を開催し、「里親先進地域」諏訪を目指す。 ・養育里親に特化したポスター・チラシを作成し、公共施設等で掲示・配付するとともに、候補者となりうる可能性が高い団体等にチラシを配付し周知する。また、里親制度個別説明会を定期開催する。				
事業期間	令和2年6月			～	令和3年3月	
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	里親養育支援促進事業	市町村職員等関係者による支援を検討するための研修会を3回にわたり開催	55,000	講師謝金、交通費		
	養育里親普及啓発事業	養育里親に特化したポスター・チラシの作成と掲示・配付、啓発行事(説明会)等でのポスター掲示・チラシ配付	166,241	ポスター500枚 チラシ2,500枚 クリアファイル1,000枚 額縁・イーゼル		
合計		221,241				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	里親制度に関する地域住民等からの問い合わせ件数		30件	34件	○ 達成	
	新規の里親登録希望者数		10件	7件	● 一部達成	
					○ 未達成	
事業実績・成果	○里親養育支援促進事業 【第1回】9月10日実施(出席9名 市町村職員)、【第2回】10月1日実施(出席14名 市町村職員、児童養護施設職員、民間団体)、【第3回】11月18日実施(出席15名 市町村職員、児童養護施設職員、教育機関職員) ○養育里親普及啓発事業 ポスター:公共施設をはじめ駅や郵便局等金融機関や小売店等で掲示。チラシ:公共施設や社会福祉協議会等への配架と出前講座(民生児童委員会等)での配付、チラシPDFデータを当局ホームページに公開。下諏訪町役場からの提案により「三角八丁」にてチラシ配布。クリアファイル:出前講座での配付。 個別説明会:10回実施(会場:児童家庭支援センターつつじ、茅野市子ども館会議室、下諏訪町イベント「三角八丁」、諏訪市交流テラスすわっチャオ)参加者30組 ポスター・チラシ作成を長野日報に、説明会開催を長野日報と信濃毎日新聞社に、第2回研修会(10/1)を長野日報に記事として取り上げてもらうことができた。					
今後の方向性	・引き続き、里親養育支援の在り方を検討するための研修会を開催する。 ・対象を諏訪地域住民全体に広げ、さまざまな媒体を活用した啓発やフォーラムを開催する。					